

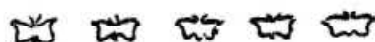
Vol. 1, No. 2

台湾の思い出 虫り事ども (1)

山川東平

昭和18年4月5日、ノオ崎の大和丸は、台湾に向って門司を出発した。そしてその多くの乗客の中に長身の青年が幾人かおられたであらう。7月頃になると甲板を過ぎる西郷隆盛の像が台湾に近いのと思はせる。8月朝の時候、甲板の人達の視界に一ツの雲にも似た島嶼が入って来た。これが台湾であった。潜水艇の魚雷の中をいってやつと着くことが出来たに似る。この安堵と共に甲板には未知の島からの便者があつた。到着していた。珍しい事には、白と黒のまじりて、前胸背に白い線を穿った、小豆の頬が片隅に覗いている。

島嶼がけっさくとし、船が近づくにつれて、昆虫の雄略と松島で見た、基隆の港に近づく。ツルムラサキミダリ等、マダガスカル島の果からふらふらと水の工を飛んで来る。眼に入、昆虫は一として一皮も見えずはないまじりばかりだった。甲板上でそれ等を見ながらいた私の心の中は、こゝへ下す文章で書き綴るまででする、熱心なコレクター、端角は想像してこれることだ。思う。(8.12, 1951)



ネジロハキリバナ

合教に産す。

ネジロハキリバナは、南の熱い国には沢山の居て、マンガウの樹陰を不り坑につめ、タユリト等の太木や葦科植物の花粉を吸って、その子や、石に巣を作っている。そして20人ほど一年中、巣の中を飛び回っているようだ。ところが日本にはあまり多く居なくて、暑の暑い頃のみしかその成虫の飛び回りの正見ない。しかる岩田久二雄氏にお願いしたところでは、備前年川で一度大坂地方で記録があった。外、あまり知られていないようだ。

筆者は本種を合教の白地で1947年2月と、1948年8月13日の二回、同じように二つの部屋の中へ入って来たものを一匹ずつ採ることになった。

おとしふじみ
虫界短報

たので皆さんにお傳えします。1947年の標本は大分県農業研究所にあり、その合教には本種はあまり居るらしいが、どう

いう風に、この地で生活しているのか、いづれなる。この中身の生態を調べることも出来れば面白であらう。(青野孝昭)

オオシロオビソウムシ

稍々旧同に属するが、1944年5月24日上房郡多和山峠でヨモギの葉上にオオシロオビソウムシを採集している。本州からはいま採集例がある。オオシロオビソウムシ。(山川東平)



2(8)

カタビロトゲの越冬

標本等の害虫として知られるカタビロトゲの越冬について、その生活史が判明したと云われているが、三田の地で、アカカシの間でビーファイグに依って一頭採集した(此種和明御高様まで)。25.5.1951. 成虫越冬が知られない。冬期この昆虫を採集すれば、お知らせ下マルカ乎です。
(山川栄平)

ヒメチャバネアオガメ

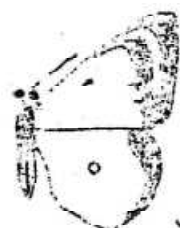
倉敷に産す

昨年8月31日 田舎の畑に飛来した三匹のヒメチャバネアオガメを採集した。採集當時はチャバネアオガメと誤っていたが、後に石原保氏のガメニ科標本(未自然ノキ)を見ていると大さくからチャバネアオガメでなくヒメチャバネアオガメだろうと思い、日本昆虫図鑑を見て明かにヒメチャバネアオガメであることを確認した。

本種は、チャバネアオガメに似ているが、次の諸点で明瞭に区別される。

- ① チャバネアオガメに比し遙かに小形(8mm)。
 - ② 一層鮮やかな色彩を有す。
 - ③ ヒメチャバネアオガメでは前脚前側縁の後が黒色でない。
- 標本に属する本種は、自宅の畑に飛来したものは面白くと思うので報告する。(白神 昭)

モンキチョウの一異変型



筆者は昨年左図の標本モンキチョウの成虫の前翅翅端部外縁にかけての黒斑が連続している部分の個体を得たが、これは面白いと思うのでここに報告する。

1950年5月14日 倉敷市免路町附近の用水田で素早く飛翔する本種とやうな個体を見た、しかし知りのオオに展翅

し、標本箱の中に置いて居いたところ、同所へ向かい注意に依り異常型の一羽らしきものがいた。こゝに白神さんに多く感謝する次第です。なお、標本は免路町所蔵している。(広瀬義男)

倉敷附近ヒメアオガメの分布

従来倉敷附近に産するヒメアオガメには、少し黒みがかつた型と、黒色部少く前翅より美しい色彩を呈する二型があるが、これは *Vanessa carui* LINNE (前者) と *Vanessa japonica* STICHL (後者) にあつて思う。現にこの筆者が観察し得た事から考えて、面白い分布状態を為すものと思う。前者は平地に多かった、倉敷附近では倉敷より北部の山地に多く、殊に福山には秋季多量に産する。後者は秋季倉敷附近の平地に産し、ニラの花によく飛来するのを見る。(広瀬義男)

花屋に飛来した

アカギマダラ



近年アカギマダラが頻りに採集されているが、こゝに筆者が月曜した一例を報告する。

1950年10月14日 倉敷市免路町天福屋白貨店前の路傍に倒れていたさやかな花屋の店前に蘭の花にたわじみている本種合(完全個体)を発見採集した。

この蝶は免路町より飛来したかと思われ、なお標本は筆者が採集している。(小野 悦夫)

倉敷のウスイロオナガラジミ

本種は本州、北海道に産するところの種
めて稀に珍種といわれているもので、旧
日本昆虫図鑑にも旧暦大山、徳州アブラ
ズ、日光、岩手県、上州、四万、備後など
に産するところであると述べられている。
しかし近年、あるところで見つかり
ており、その産地は拡大されているのであ
る。

倉敷地方でも1951年6月17日、26日、
白神氏に依り2個体が最初に発見され
た。続いて7月27日には2個体を捕
獲した。これによって本地方でも高田附近のみ
(標高400m位)に多少発生していることがわか
った。その後反野氏に依り1個体、更に
昨年は白神氏からウシノコを採って飼育して
いる。この種でなければならぬ発生して
いる。又これに近しいウスイロオナガラジミと比
べてその成虫の発生が少々半月位おくれ
る種である。なおこの種(ウシノコ)は産卵
という事と新田先生に手紙で尋ねたところ、
ウシノコは私は大して面白くないと思
うとのお返事があつた事をお知らせしておく。
(小野 洋)

シジミケの

早期発生一例

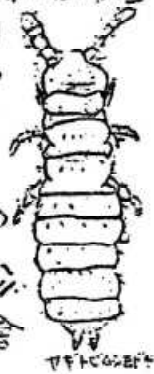
1. D. 1951. 青陵高校桑の羽
島山に食食時に登って一時散歩
している。ルリシジミに似たシジミ
がウーッと飛んでいきつて見つけたが、高く上っ
てしまったので、その種をたしかめることが出来
なかった。しかし成虫越冬のシジミと異なり、
ルリシジミ、ツバメシジミ、その他の種より早く発生
する(ベニシジミも早く発生するが、この場合は若に
入らなくてもよい。編者注)ので、恐らく、それ等
のうちの一様であろうと思う。加羽島山ではルリ
シジミ、ツバメシジミのオナガラジミに多いので、ツバ
メシジミではないかと思う。早期発生の一例
として報告する。(注：その日は天候良く風も
なく、暖かであった)(反野 良一)。



トビムシモドキの発生

昨春秋 豊後、森田両氏に発
生した ヤギトビムシモドキはワタ
アトビムシモドキ(トビムシ)の幼虫
に似て、その被害が伝えられた。
トビムシは一度まで捕獲した。豊後
に全く発生し、一度日
を捕獲したと伝えられる。
この発生について、
豊後の森田氏に知らせて下
されば幸である。

(山川 栄平)

倉敷昆虫同好會
採集會予定4月下旬 真庭郡湯原町
(ギョウウ)5月上旬 阿智郡新見町
坂下附近の2バシの谷(谷)6月上旬 石見→神代
(森田氏 裕家) 阿智郡

6月下旬 伯耆大山(鳥取縣)

7月下旬 広島縣道後山

以上の様に大体的に予定を立てて見
た。此の予定はあくまで予定に止まり、
必ずしも確定のものではないが、
なおこれ他臨時倉敷附近で、
採集會を行つたのである。今後の
下り。詳細は後ほど発表致し
ます。(編集部)



編集後記

第2号まで届け
ます。皆さんの御
手紙に依りやうと出
来上りましたこと感謝して居ま
す。二月には主として春型の
風が吹いています。梅も六分
づきとふくらませて来ましたが、
シロたけ直ぐ出かけている。皆さんの
新は御注意しお祈りします(8生)。

4(10)



會敷昆虫同好會公頁名簿 (正)

13	猪原 正治	小学校 4年
14	上松 得男	7年
15	岡本 和敏	6年
16	尾崎 年彦	小学校 6年
17	木村 重雄	小学校 6年
18	小林 替雄	4年
19	後藤 史正	5年
20	佐々木 道弘	4年
21	貞広 孟史	4年
22	高取 更生	4年
23	谷川 明生	4年
24	中尾 修平	4年
25	中山 時夫	6年
26	原 浩二	4年
27	福森 隆之	4年
28	松谷 秀夫	4年
29	山畑 耕治	小学校 5年
30	山畑 博明	5年
31	若林 三郎	小学校 6年
32	若林 英毅	"



昭和26年2月15日印刷
昭和26年2月23日発行
編集者 白神昭、志野良一
印刷 白神昭
発行所 新川町金教西小学校後群神会連
非愛品 金教西小学校後群神会連